

日本版電子インボイス 共通仕様の検討

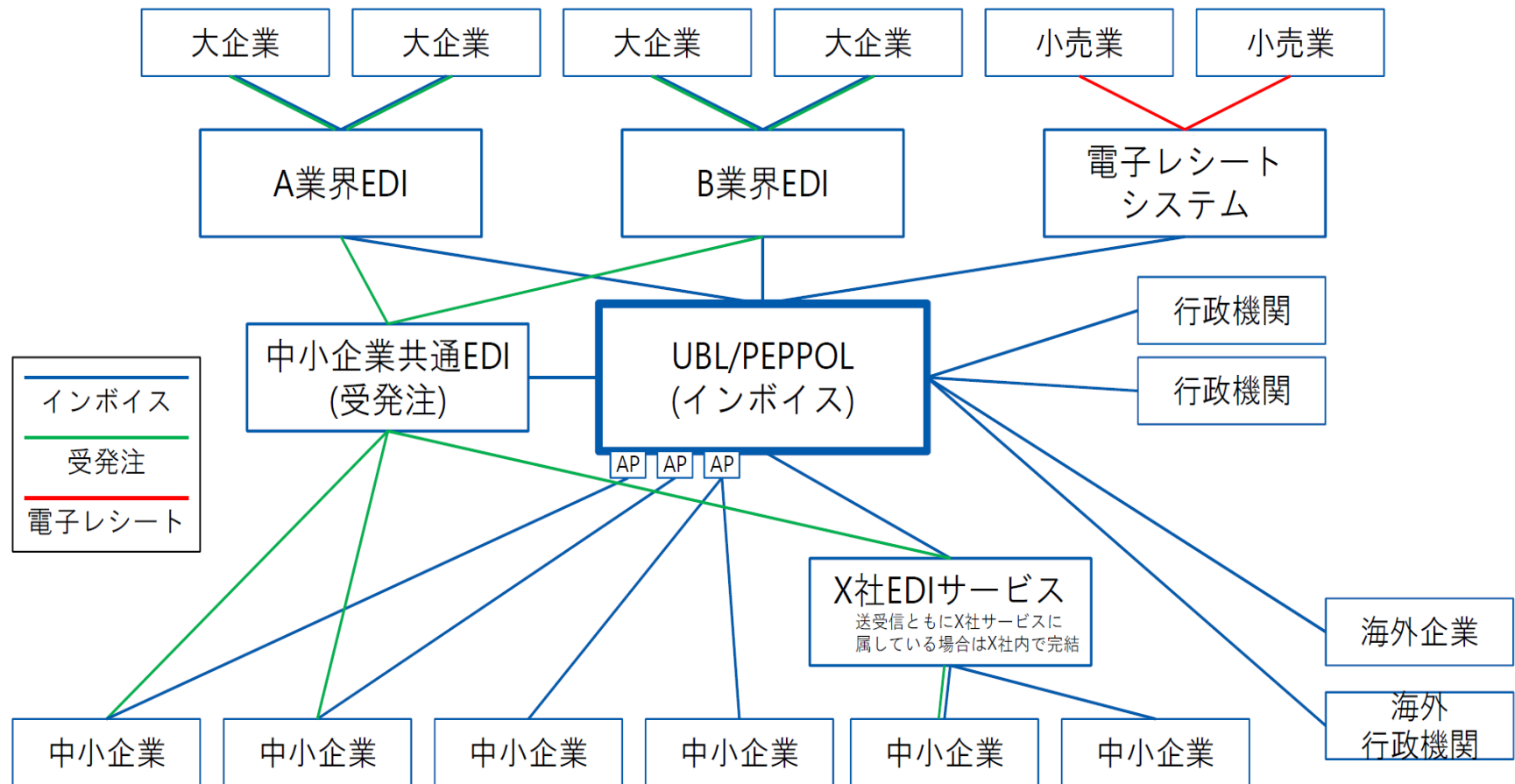
特定非営利活動法人
ITコーディネータ協会
共通EDI標準部会

EIPAの電子インボイス共通仕様検討経過

- EIPA電子インボイス共通仕様の目的
 - ① 適格請求書保存方式に対応する電子インボイス
 - ② 国際標準に対応する電子インボイス
 - ③ 付加価値を提供できる電子インボイス
 - ④ 小規模事業者でも利用できるコストの実現
 - ⑤ 適格請求書等保存方式に対応するITサービスが2023年10月までにサービス提供を確約
- 次の2方式の審議を実施
 - 【A案】PEPPOL（電子インボイス欧州規格）
→EIPA提案
 - 【B案】国連CEFACT Cross Industry Invoice(UN-CII)
→ITC協会提案
- EIPAは【A案】を共通仕様として採用
 - ただし、下記条件付き
 - 日本の商習慣への対応
 - 各業界の固有電子インボイスの利用は認める

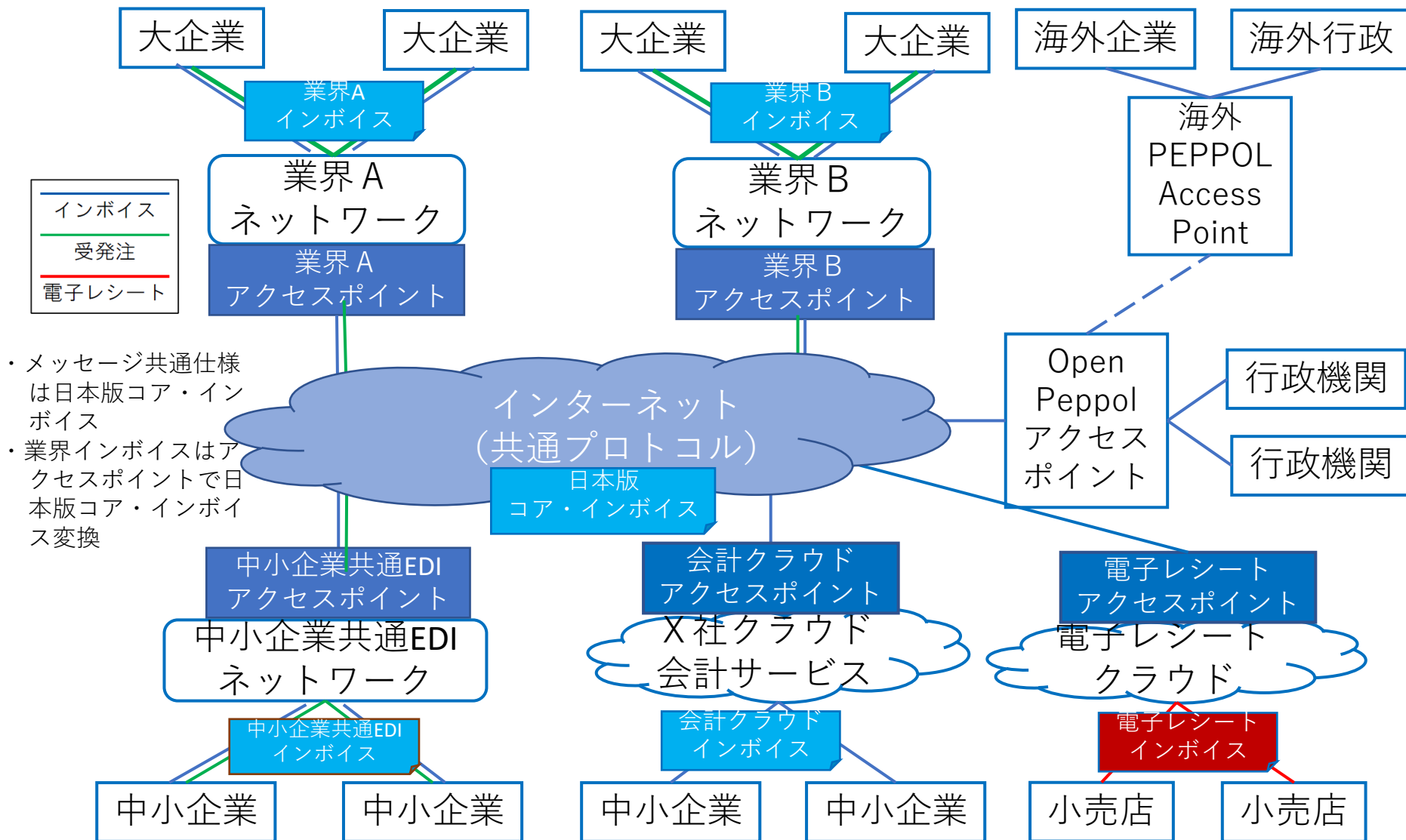
日本版電子インボイス共通仕様【A案】

想定する「共通電子インボイスシステム」＜E I P A 提案＞



日本版電子インボイス共通仕様【B案】

<国連CEFACTグループ提案>



中小企業共通EDI 電子インボイス共通仕様開発方針

- 電子インボイス共通仕様策定の目的
 - 中小企業共通EDI電子インボイスは下記の実現を目指す
 - ① 適格請求書保存方式へ対応する電子インボイス
 - ② 業界毎の多様な電子インボイスの交換（ITC協会提案）
 - ③ 日本の商習慣へ対応する電子インボイス
 - ④ 国際標準へ対応する電子インボイス
 - ⑤ 付加価値を提供できる電子インボイス
 - ⑥ 小規模事業者でも利用できるコストの実現
 - ⑦ 適格請求書等保存方式へ対応する中小企業向け業務アプリについて、2022年バージョンから認証公募を開始
- PEPPOLへの対応
 - 行政インボイスはPEPPOLの採用を公表
 - 多様な業界電子インボイスを連携する方式として「日本版コアインボイス」の確立を目指す
 - PEPPOLは業界電子インボイスの一つと位置付けて対応

日本版コアインボイスの要件

• 電子インボイス共通メッセージ辞書

- 業界固有メッセージの情報項目を業種の壁を越えて連携するため、メッセージ変換のための共通メッセージ辞書を策定する
- 各業界電子インボイスは共通メッセージ辞書とのマッピング表を公開すれば、異なる業界間の適格請求書対応メッセージの連携が実現する

• 電子インボイス共通コード表

- 各業界EDIは多様な取引プロセスの手順等に対応するため、業界標準コード表を提供している。しかし、各業界は独自にコードを設定し定義しているため、電子インボイスを連携するためには電子インボイス共通コード表を策定して、変換が必要になる

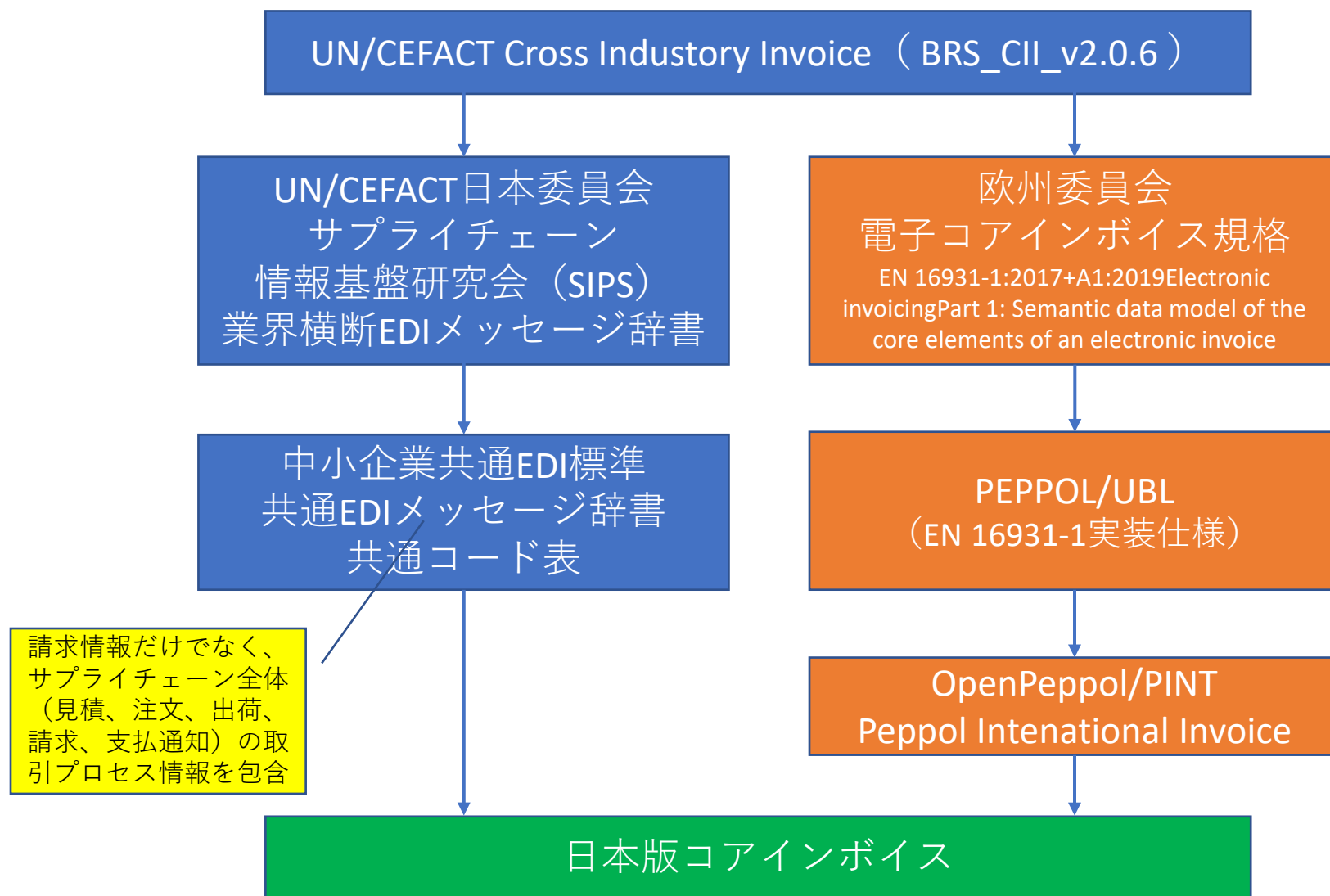
• 国際標準への対応

- メッセージ辞書はUN/CEFACT CIIと欧州規格コアインボイスが提供されているのでこれらを参照する
- 共通コード表はUN/CEFACTが共通コード表を提供しているためこれを参照する

電子インボイスの国際標準とその展開

- **UN/CEFACT Cross Industry Invoice(BRS_CII_v2.0.6)**
 - 電子インボイス国際標準の基本仕様
 - 各国の標準化団体がCIIをベースにサブセットを策定
- **欧州規格コアインボイス**
(EN 16931-1:2017+A1:2019Electronic invoicingPart 1: Semantic data model of the core elements of an electronic invoice)
 - 欧州各国の行政調達のために策定された
 - UN/CEFACT CIIの欧州行政調達版サブセット
- **PEPPOL/UBL**
 - **EN 16931-1:2017の実装仕様**
 - 電子インボイスメッセージのXMLスキーマとアクセスポイント間連携プロトコルを規定
- **中小企業共通EDI**
 - UN/CEFACT CIIの我が国中小企業版サブセット
 - 中小企業共通EDI標準として実装仕様を規定
 - 中小企業共通EDI標準を実装したITツールの相互連携性を確認し公開するために、認証制度を実施

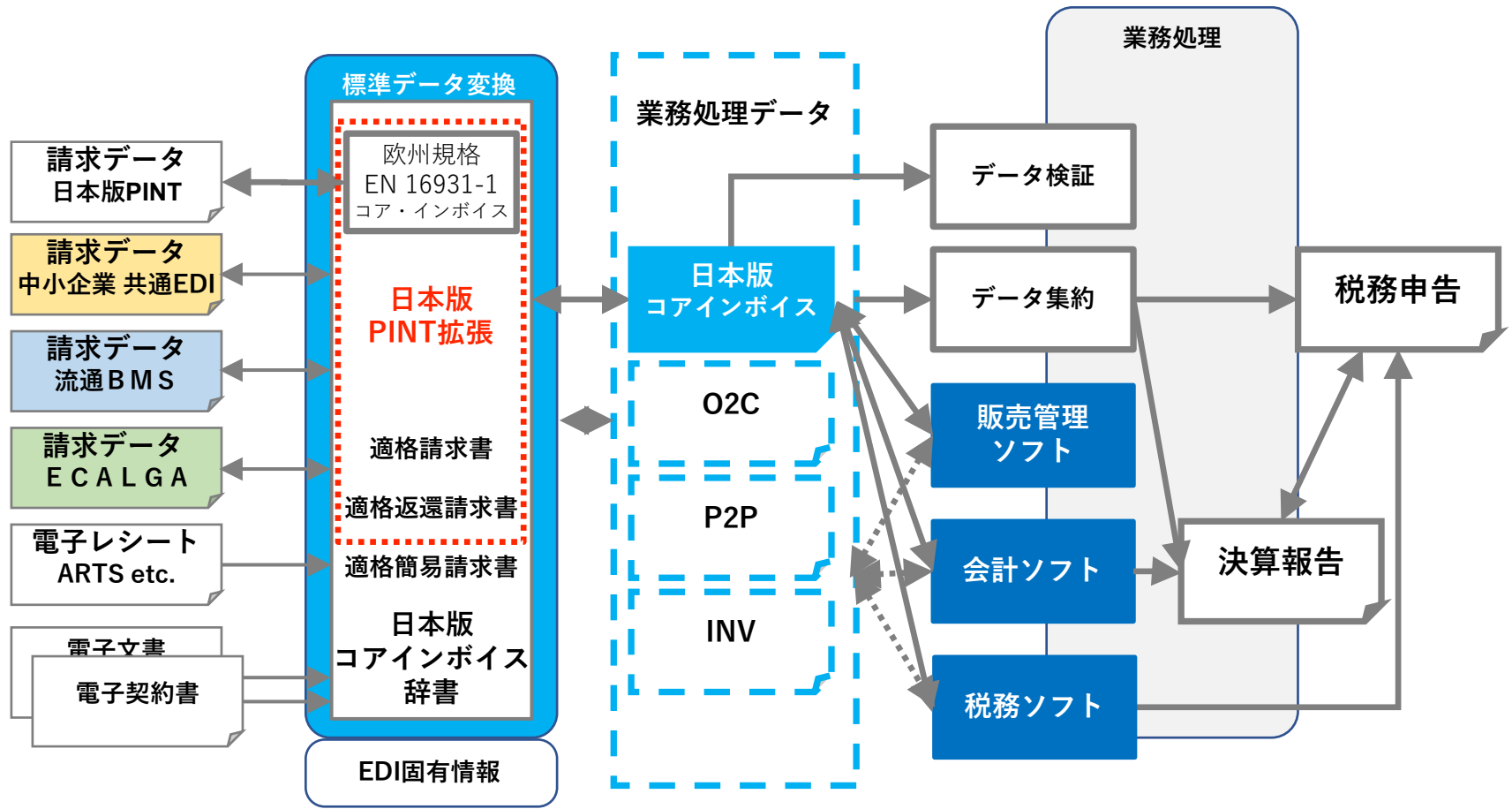
電子インボイス国際標準体系図



日本版コアインボイスの提案

日本版コアインボイス
へ/からの標準データ変換

それぞれの仕組みはそのままに、日本版コアインボイス対応
(1×n) すれば個別フォーマットごとの対応 (m×n) は不要

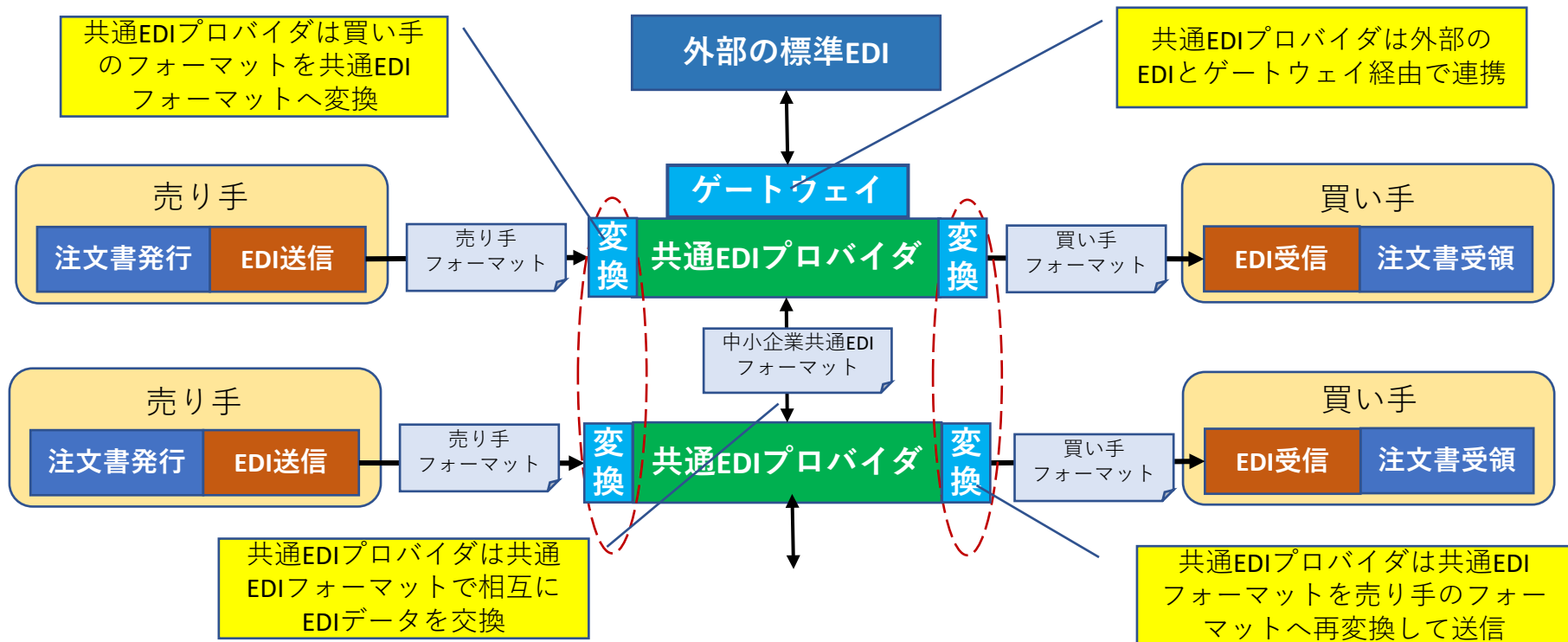


DXの業務処理フロー

© XBRL Japan顧問 三分一信之

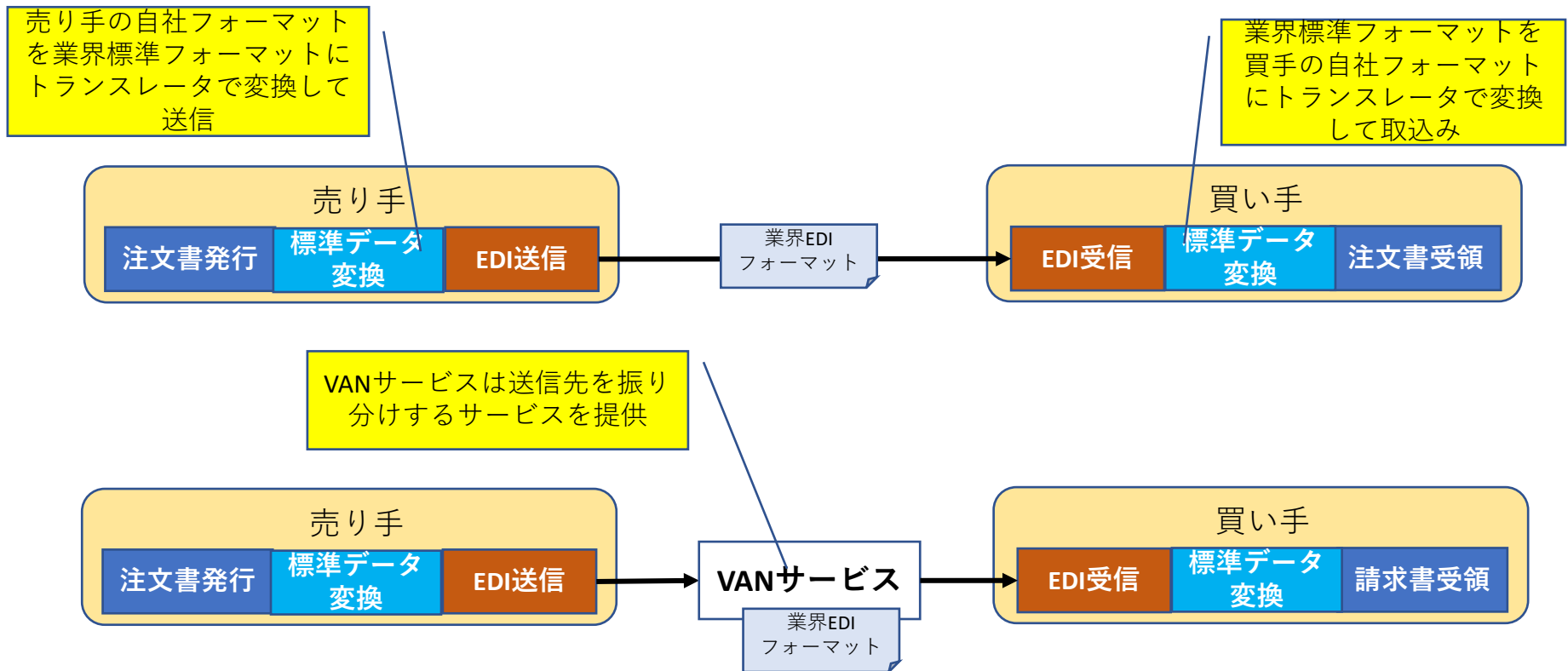
©2021 ITCA

中小企業共通EDIのネットワーク



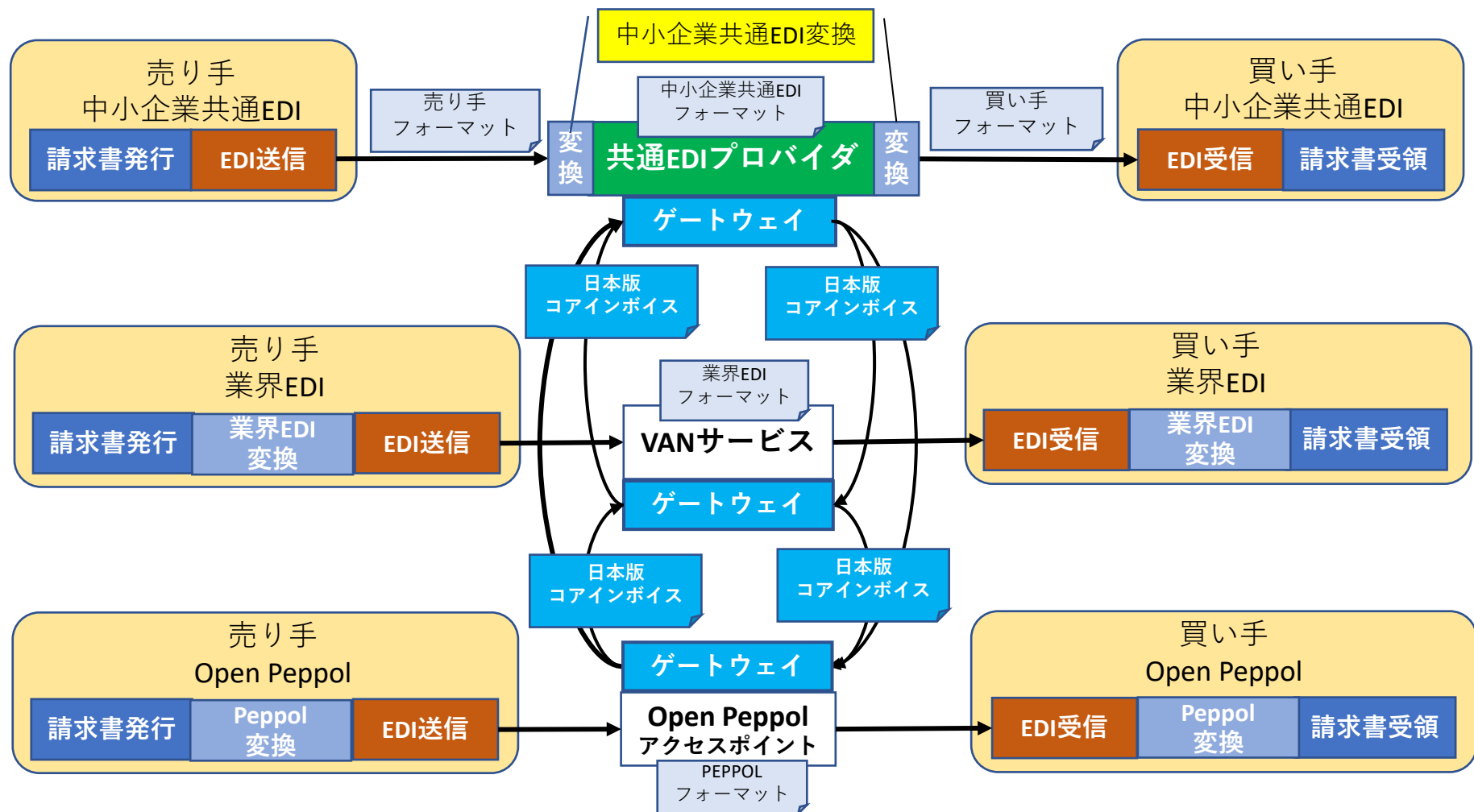
- 中小企業共通EDIのNW構成は4コーナーモデル
→すべての共通EDIユーザーは共通EDIプロバイダ経由で相互に接続する
→多プロバイダ問題を引き起こさないために共通EDIプロバイダは相互にデータ連携する
- 売り手、買い手の業務アプリ固有のフォーマット変換をユーザーの負担にならないようにするため、共通EDIプロバイダが安価にフォーマット変換サービスを提供することにより中小企業のEDI利用を可能にした
→この構成とサービスが既存業界EDIのNW構成と異なる

現状の業界EDIネットワーク



- 業界EDIのNW構成は1対1接続が原則。
→ トランスレータを買い手、売り手が導入して変換する
- VANサービスも提供されている。送信先の振分サービスを提供。
→ フォーマットは1対1接続と同様に買い手、売り手が変換。
→ このモデルは3コーナーモデル

Open Peppol との連携（構想）

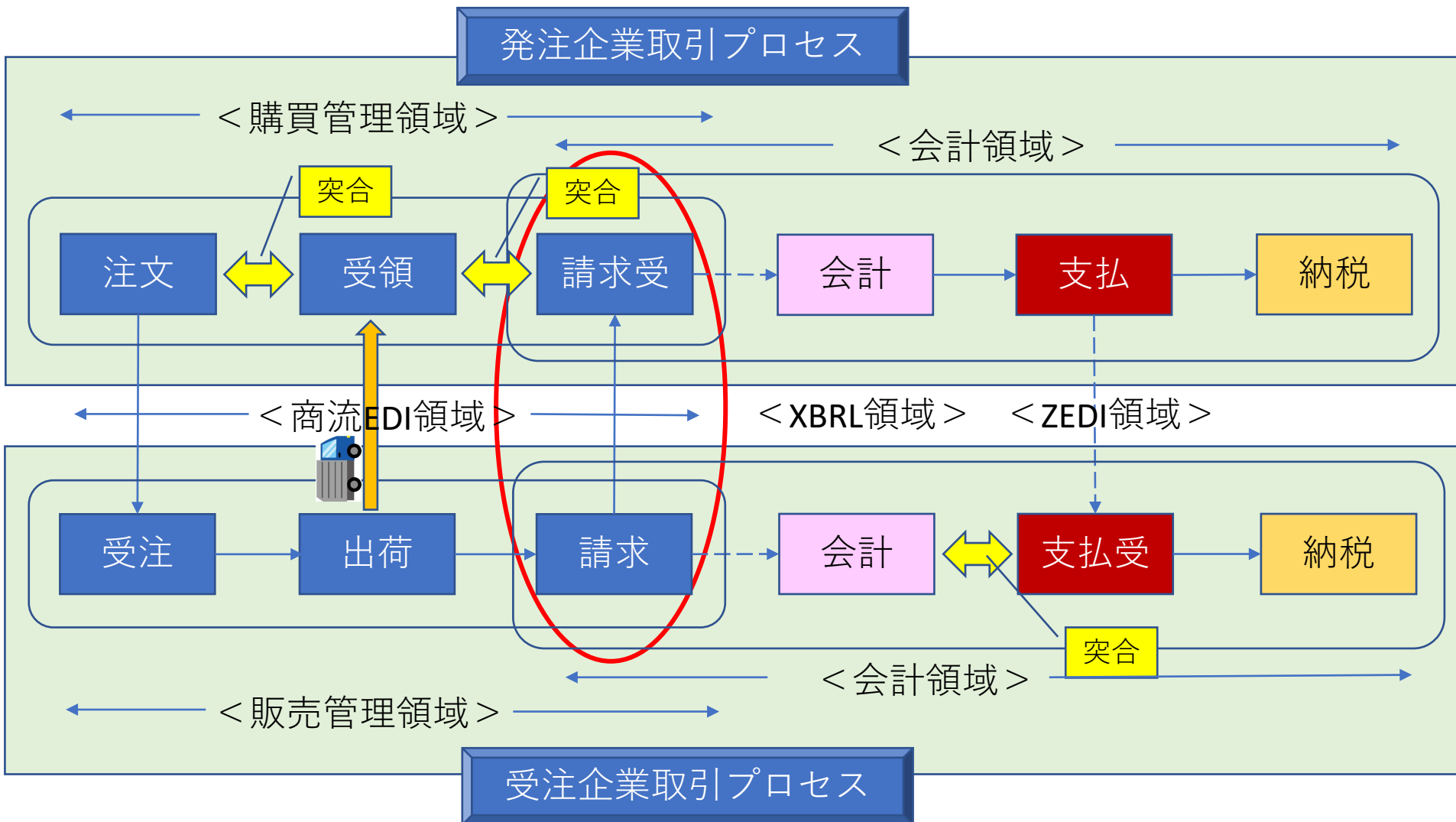


- Open Peppolと接続するゲートウェイ共通仕様を策定
 - 電子インボイスメッセージ変換共通仕様
 - ゲートウェイ間接続のための共通プロトコル

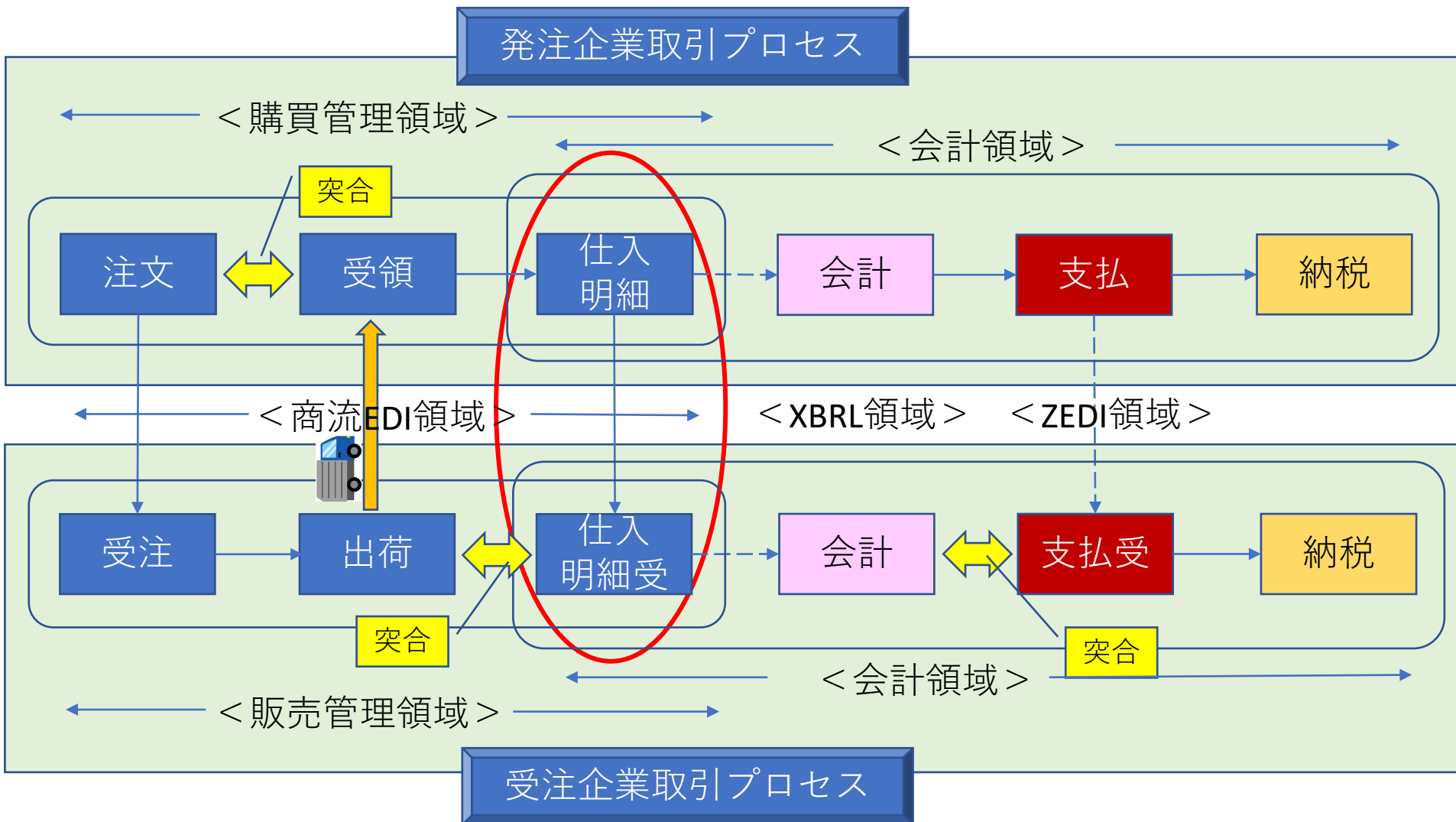
中小企業共通EDI標準ver.4の着眼点

1. 適格請求書への対応
 - 月締請求電子インボイス
 - 仕入明細電子インボイス＜月締め＞
 - 出来高請求電子インボイス（建設業）
2. 業界固有のSCMビジネスルールへの対応と自動突合
 - 流通業界（流通BMS）
 - 製造業界（JEITA-ECALGA）
 - 建設業界（CI-NET）
3. 金融EDIとの連携
 - ZEDI/S-ZEDIとの整合
4. 行政電子インボイスとの連携
 - 日本版コアインボイス経由
5. 日本版コアインボイスへの対応
 - 適格請求書対応仕様の組込み
 - 電子インボイス共通コード表の策定
 - 会計アプリとのデータ連携

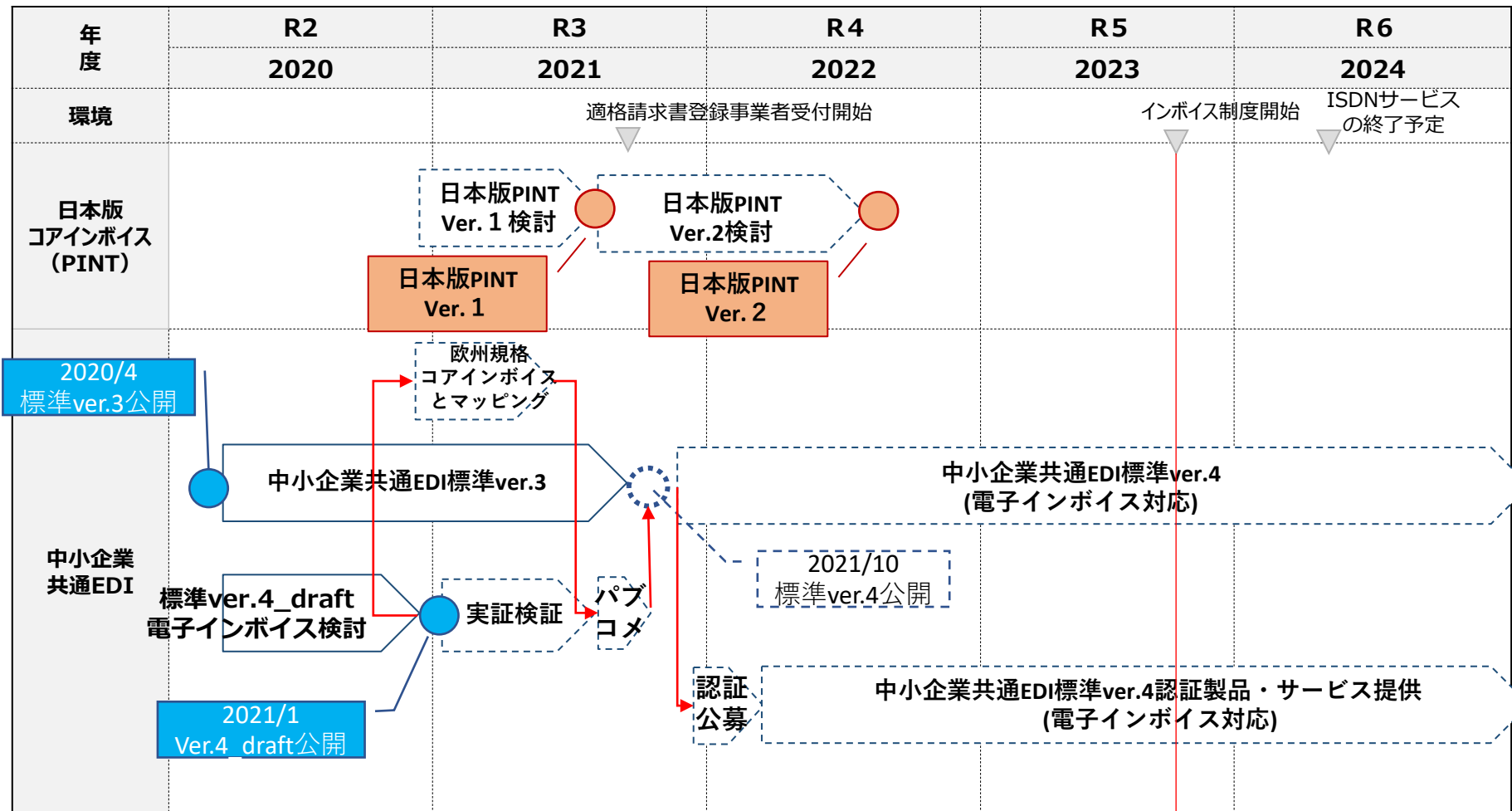
請求インボイスの自動突合



請求レスインボイスの自動突合

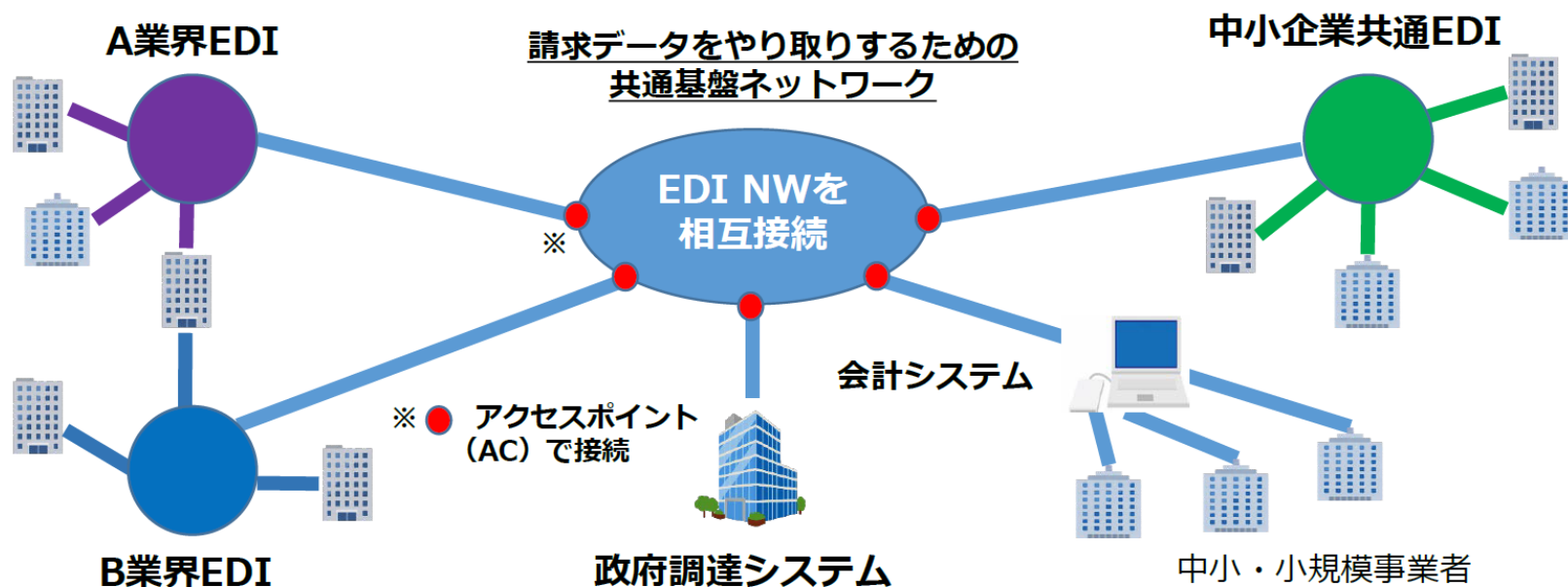


共通EDI電子インボイス実用化ロードマップ



- 目指すべき「電子インボイスの標準仕様」は、中小・小規模事業者の方が負担のない快適なUI/UXで、「デジタル化」の恩恵を受けることができるように、
- ・ 幅広い事業者が、容易に、かつ、低コストで利用できる仕組みであること、
 - ・ 既存の仕組みからの移行が容易であること、
 - ・ グローバルな標準規格をベースとする、
- などの観点が重要となる。

実現すべきアーキテクチャ（イメージ）



出典：電子インボイスに係る取り組み状況について（内閣府IT総合戦略室_令和2年12月9日）